

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 1 **理念・目的**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、全学共通教育の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2) 全学共通教育の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3) 全学共通教育の育成する人間像は、明確ですか。	B
		(4) 全学共通教育の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および全学共通教育の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1) 全学共通教育の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧とホームページなど)との記述の齟齬	A
		(2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、全学共通教育の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。
0101 (2) 全学共通教育部(2011年-2017年)は、学内措置によって、人間創成総合教育センター(2018年-)に改組された。この改組は、全学共通教育を担う教員を学部配置し、全学の教員で担当する方針を実現するための布石として実施された[0101a]。
0101 (3) 「全学共通教育」が「あてになる人間」の育成を目指すために追求する人間像は、学内措置に伴う人間力創成総合教育センターへの改組を通じて一貫している[0101b, 0101c]。
0101 (4) この「全学共通教育」による教育研究上の目的は、大学の基本理念・使命・教育目的「不言実行、あてになる人間」の育成と密接に関連する[0101d]。 ・2017年度には、全学共通教育部部長が「全学共通教育部運営委員会」の委員長を務め、同委員会を6回開催し、全学共通教育部における重要事項の取り決め手順等(例えば、人事)を確認し、周知した。また、同委員長は全学部長が共通教育課の科長を兼務する目的を、同委員会に出席する全学部長に説明した[0101e]。

・2018 年度には、人間力創成総合教育センター長が「人間力創成総合教育センター調整企画会議」の議長を務め、同会議を2回開催し、2018 年度に発足した人間力創成総合教育センターが全学共通教育部を引き継ぎ、よりよい教養教育の実施に向けての趣旨説明を行なった[0101f]。

0102 (1) (2) 全学共通教育の目的や育成する人間像は、学生便覧と大学のホームページ(HP)に公表されている[0102a]。

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの

項目 No. 該当なし

課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点

項目 No. 0101 人間力創成総合教育センターは全学共通教育部を引き継ぎ、現状では当センターに所属する教員の所属形態がセンター本務と学部兼務と混在している。こうした構成員間での所属の混在を勘案し、各構成員の全学共通教育の負担や昇格条件等を多角的に評価する基準の作成を必要とする。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

0101 センター長は、具体的な自己点検に向けて、人間力創成総合教育センター運営委員会の下に、各 EP(教育プログラム)の主任を中心とする作業部会(WG)を置き、カリキュラムの点検・見直しを開始し、開講時期の見直しや、履修モデルの作成、学修成果の検証を実施することを報告し、周知した。
第1回の会議(2018年5月30日)では、「人間力創成総合教育センター本務教員および学部所属の教育プログラム兼務教員(学科所属教員を除く)の人事に関する申し合わせ(案)」を審議した。教員の所属形態(センター本務、学部兼務の混在)を勘案し、昇格の条件を「センターまたは学部に関する業務」とし、当該教員の昇格は各学部長とセンター長が協議して行うことが合意された。
第2回会議(2018年10月31日)では、2021年から運用予定の外国語科目(英語)のカリキュラム変更案が語学共通教育WGで作成されたことが報告された。WGで再検討後、人間力創成総合教育センターより、教務委員会へ提案する。[0101f]

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策(到達目標を含む)
0101	2021年から運用予定の外国語科目(英語)のカリキュラム変更案を語学共通教育WGで作成する。
0101	全学共通教育と学部専門教育との連携、一貫性の確立:学士課程教育(CP)に全学共通教育を含めた4年一貫教育体制の確立・再構築。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0101	a	中部大学 学びの拠点を目指して_antenna_2018.6	A
0101	b	全学共通教育部 HP_ホーム・概要 https://www3.chubu.ac.jp/general_education/ https://www3.chubu.ac.jp/general_education/about/	A
0101	c	人間力創成総合教育センターHP_ホーム https://www3.chubu.ac.jp/global_education/	A
0101	d	中部大学 HP_大学概要_基本理念・使命・目的 https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/	A

0101	e	2017 年度全学共通教育部運営委員会議事録	A
0101	f	2018 年度人間力創成総合教育センター調整企画会議議事録	A
0102	a	中部大学 HP_学部・大学院_学部教育の特色_教養教育	A

提出区分 … A: 本シートと一緒に提出する資料 B: 現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 2 内部質保証

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価（学内内部評価を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0203	(4) 全学共通教育部(2017 年度)と人間力創成総合教育センター（2018 年度）とは当該年度内に外部評価を受けていないが、全学的な自己点検・評価として2種類の学内内部評価を受けている[0203a, 0203b]。 第1の自己点検は、全学的に実施されている教員自己評価である。各教員は年度はじめに「教育活動重点目標」を教育、研究、社会的貢献などの項目別に記載し、年度末に当初目標の達成度を「自己評価」して記入する。提出された各教員の目標と自己評価は、各部署長が点検・評価し、最終的に学長が点検・評価する。 第2の自己点検は、学部等の組織に課される重点事業計画の提出と計画に対する学長および執行部による点検・評価である。人間力創成総合教育センターから提出される事業計画は、教育活動、教育体制、国際化への対応、財政の健全化、高大連携教育、初年次教育とキャリア教育の整備充実に亘る。人間力創成総合教育センターのセンター長と副センター長は提出した重点事業計画書に対して、学長および執行部との面談による質疑を受け、そこでの質疑応答を総合的に自己点検・評価に利用する。 ・人間力創成総合教育センターは、センターの運営に関する重要事項および教養教育のあり方等を審議するためにセンター調整企画会議を置く。この会議は、学内内部評価の機能を担う[0203c, 0203d]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	該当なし
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0203	重点事業計画に対する学長ヒアリングでの内容を企画調整会議で報告し、かつ審議する。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	---

0203

・2017年度には、全学共通教育部部長が「全学共通教育部運営委員会」の委員長を務め、同委員会を6回開催し、全学共通教育部における重要事項の取り決め手順等(例えば、人事)を確認し、周知した。また、同委員長は学部長が共通教育課の科長を兼務する目的を、同委員会に出席する全学部長に説明した[0203e]。

・2018年度に発足した人間力創成総合教育センターが全学共通教育部を引き継ぎ、2018年度には、学長が指名した副学長が「人間力創成総合教育センター調整企画会議」の議長を務め、同会議を2回開催し、よりよい教養教育の実施に向けての趣旨説明を行なった[0203d]。

・センター長は、具体的な自己点検に向けて、人間力創成総合教育センター運営委員会の下に、各EP(教育プログラム)の主任を中心とする作業部会(WG)を置き、カリキュラムの点検・見直しを開始し、科目の開講時期の見直しや、履修モデルの作成、学修成果の検証を実施することを報告し、周知した。

・第1回の会議(2018年5月30日)では、「人間力創成総合教育センター本務教員および学部所属の教育プログラム兼務教員(学科所属教員を除く)の人事に関する申し合わせ(案)」を審議した。教員の所属形態(センター本務、学部兼務の混在)を勘案し、昇格の条件を「センターまたは学部に関する業務」とし、当該教員の昇格は各学部長とセンター長が協議して行うことが合意された。

・第2回会議(2018年10月31日)では、2021年から運用予定の外国語科目(英語)のカリキュラム変更案が語学共通教育WGで作成されたことが報告された。この変更案はWGで再検討した後に、人間力創成総合教育センターより、教務委員会へ提案するために現在検討中である。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策(到達目標を含む)
0203	内部質保証システムの機能向上に向けて、中部大学自己点検・評価実施要項が整備され、それに従って自己点検・評価を進める[0203e]。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	a	教員活動重点目標・自己評価シート様式	A
0203	b	学部等重点事業計画について(2018年度・2019年度)	A
0203	c	2017年度全学共通教育部運営委員会議事録	A
0203	d	2018年度人間力創成総合教育センター調整企画会議議事録	A
0203	e	中部大学自己点検・評価実施要項	A

提出区分 … A:本シートと一緒に提出する資料 B:現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・ 授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・ 授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	A
		(4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・ 授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・ 履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。	A
0405	成績評価、単位認定は適切に行っていますか。	(1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・ シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・ 規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。

0404 (2) シラバスには、授業の「授業の趣旨」、「具体的達成目標」、授業前・授業後の学修（準備や課題）とともに毎回の「授業計画」、「授業方法」、「成績の評価方法」、「成績の評価基準」が明記されている [[0404a]。また授業内容とシラバスの整合性については、2008 年度より開始した『魅力ある授業づくり』の活動によって教員による自己評価および学生による授業評価を受けるとともに、教務モニター制度の学生意見等によるヒアリングなどから整合性を毎学期末に確認するようにしている [0404b, 0404c]。またシラバスの内容については、秋学期末に行われる各主任がとりまとめる「第三者点検」によって内容の評価・確認をするようにしている [0404d]。	
0404 (3) 学生の主体的参加を促すものとして、授業後に「感想文」提出を課す授業が存在し、科目によっては「グループワーク」を行って学生が主体的に思考、活動する授業を実施している [0404e]。	
0404 (4) 授業編成および運営については、対象年度においても主任（EP 主任）が主任者会、センター運営会議などで適正に運営されているか確認をしている [0404f]。履修人数や履修ガイダンスについては大学教務支援課の履修指導等によって実施されている [0404g, 0404h, 0404i]。	
0405 (1) シラバスの「達成目標」にそった成績評価が行われているかについては、おおむね各教員の裁量によるが、成績評価に疑問がある場合には、学生が一定期間内に確認を願い出る制度を設けている [0405a, 0405b]。	
0405 (2) 既修得単位の認定については、中部大学学則第 10 条・第 11 条の規定により適切に行われている。具体的には、教務課に提案した上で教授会の承認を経て適正性を確保している [0405c]。	
0405 (3) 成績評価の客観性、厳格性については、「成績評価の方法」、「成績評価の基準」についてシラバスの第三者点検を通じて確認している。しかし、厳格に成績評価について組織的に確認しているわけではない。ただ、学生には成績確認期間をもうけ、成績に疑問がある場合には決められた期間内に問い合わせができるようにしていることで、ある程度の客観性を保つ努力をしている [0405a, 0405b, 0404d]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0404 (2)	シラバスには授業の詳細な「趣旨（目的）」、「達成目標」、「授業計画」、「成績の評価基準」が明記してあり、適切性を第三者点検によって確認している [0404a, 0404b, 0404c]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0405 (3)	成績評価がシラバスの記載通りに行われているか、客観性および厳格性について点検するシステムが検討されるべき。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0404	・2017 年度は全学共通教育科目および関連科目については、全学共通教育部が所轄していたが、2018 年度より人間力創成総合教育センターが設置され、全面的な組織替えとなった。しかし、授業運営・成績評価に関しては、基本的方針は変化なく、実施されている。今後とも学生の視点にたつ「魅力ある授業」を展開していくよう努力する所存である [0404b, 0404c]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
No. 0404 (2)	シラバスと授業内容の整合性について、より効率的に行える方法の検討
No. 0404 (3)	学生の主体的参加をよりいっそう促す授業形態・授業内容の検討
No. 0404 (4)	成績評価の客観性・厳格性を点検する方法の検討

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		

0404	a	大学 HP シラバス/サンプルページ 「世界の歴史と日本」(人文リテラシー科目) https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2018&value(semekikn)=1&value(kougicd)=11514&value(crclumcd)=01000000002016	A
0404	b	大学 HP/魅力ある授業づくり https://www2.chubu.ac.jp/quest/about/	A
0404	c	「中部大学『魅力ある授業づくり』5年間の取り組みを振り返って—2013年度から2017年度の実践と振り返り—」『中部大学教育研究』18(2018), pp. 72-90.	A
0404	d	「シラバスの記載内容における第三者点検について(お願い)」	A
0404	e	大学 HP シラバス/サンプルページ (感想文のあるもの:「芸術の世界」(西山伸一)) https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2019&value(semekikn)=1&value(kougicd)=11172&value(crclumcd)=01000000002016 (グループワークのあるもの:「自己開拓」(大橋岳)) https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbssbdr.do?value(risyunen)=2019&value(semekikn)=1&value(kougicd)=25001&value(crclumcd)=01000000002016	A
0404	f	全学共通教育部主任者会・人間力創成総合教育センター運営委員会の各名簿	A
0404	g	人間力創成総合教育センター運営委員会会議資料:2018年度履修者数(資料4)	A
0404	h	2017 受講者数制限科目一覧	A
0404	i	人数制限のある科目(「2018年度春学期(在学生用)履修申告について」教務支援課 p.12)	A
0405	a	大学 HP / 成績評価の基準 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/grade/	A
0405	b	2018年度秋学期 授業科目の成績報告について(教務支援課からの文書)(特に7を参照)	A
0405	c	中部大学学則(pp. 3-4) https://www3.chubu.ac.jp/documents/about/content/5592/5592_36e3d1c342adf8e0ef1cc98236dbd4c2.pdf	A

提出区分 … A:本シートと一緒に提出する資料 B:現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 4 教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	A
		(2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	B
		(3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	B
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上に取り組んでいますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0406 (1) 学生の学習成果を計測する指標を定め、成果を確認しているかについては、シラバスによって「授業達成目標」および「成績の評価基準」によって指標を定め、『魅力ある授業づくり』のシステムを利用して教員および学生相互の評価を行うことで確認している。このことはシラバスにのっとった学修が適切に行われているかどうかの確認も兼ねている。さらに本学では、GPA(Grade Point Average)制度を導入し、成果および学習指導に用いている [0406a, 0406b, 0406c]。

0406 (2) 成績分布、進級等の情報は、運営委員会や教授会などで統計資料が各教員に配布されることで確認されている。また各 EP において主任がその資料にもとづき確認を行っている。また学生の出席状況、単位取得状況、各科目の成績、各学期の GPA 等が、中部大学教育支援ポータルサイト (Tora-net Portal) で教員が点検することができ、学習の成果等について情報が適切に共有されている [0406d, 0406e]。	
0406 (3) 学習成果の把握および評価については、各教員による授業期間中の①アセスメント・テスト (教場テスト、期末試験など)、②学習成果の測定を含む学生による評価 (『魅力ある授業づくり』システム) を中心として実施している [0406f, 0406g]。	
0407 (1) 基本的には「魅力ある授業づくり」システムを通して各教員が自己の授業内を改善してゆくこと、また毎年義務付けられている「教員活動重点目標・自己評価シート」で自己点検・評価を行っている。また毎年度「教育・研究活動に関する実態資料」を刊行し、教員の教育・研究・社会貢献活動について点検している [0407a, 0407b]。	
0407 (2) 当部署では、「学部等重点事業計画」を毎年提出し、学長等のヒアリング・評価を受けることで業務の評価と改善・工場に取り組んでいる [0407c]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0406 (1)	『魅力ある授業づくり』システムによる教員の自己評価および学生による評価をうけることで学生の学習成果を向上させる仕組みを構築している [0406a]。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0406 (1)	『魅力ある授業づくり』システムについてさらなる改善・意識向上を検討
項目 No. 0406 (2)	成績関連情報を十分に共有していることを確認するシステムを検討

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果 (【留意点】等) への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
・学生に対して『魅力ある授業づくり』への積極的参加をより効果的に呼びかける方法の検討とともに、成績評価の確認方法および教員間での情報共有を今後とも検討してゆく所存である [0406g]。	
・2017 年度の全学共通教育部から 2018 年度に人間力創成総合教育センターに組織替えになったが基本的な全学共通教育科目および関連科目の適切な運営状況は変わらない。ただ、新組織での変更点もあるため、「学部等重点事業計画」に基づき改善してゆく予定である [0407c]。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0406 (2)	学習成果に関するさらなる情報の把握と教員間での情報共有を検討
0407 (2)	「学部等重点事業計画」のさらなる検討と改善

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0406	a	大学 HP シラバス/サンプルページ 「世界の歴史と日本」 (人文リテラシー科目) (0404a と同じ)	A
0406	b	大学 HP/魅力ある授業づくり https://www2.chubu.ac.jp/quest/about/	A
0406	c	『2018 年度 学生便覧』 p. 4 (GPA 制度)	A
0406	d	2 年次～4 年次進級者数一覧 (人文学部教授会資料)	A

0406	e	Tora-net Portal https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/top.do	A
0406	f	大学HP／シラバスサンプル (教場テストの事例：「芸術の世界」(西山伸一)) https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/syllabusv3/slbsbdr.do?value(risyunen)=2019&value(semekikn)=1&value(kougicd)=11172&value(crclumcd)=0100000002016	A
0406	g	「中部大学『魅力ある授業づくり』5年間の取り組みを振り返って—2013年度から2017年度の実践と振り返り—」『中部大学教育研究』18(2018), pp. 72-90.	A
0407	a	教員活動重点目標・自己評価シート様式	A
0407	b	「教育・研究活動に関する実態資料」(学外非公開) 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/university_education/publication/contents/	A
0407	c	2018年度の学部等重点事業計画について	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 6 教員・教員組織

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	B
		(2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・国際性、男女比等に配慮した教員配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(3) 学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	B
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	B
		(2) 規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1) FD活動を組織的に実施していますか。	B
		(2) 点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用い

て「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。

0602 (1) 全学共通教育部に配置する教員数には明確な基準は無いが、大学設置基準・収容学生定員における学部以外の教員数（82名）の半数程度を全学共通教育部（学部共通教育科も含む）およびこれを引き継いだ人間力創成総合教育センターの適切な専任教員数と考えて補充・維持してきている（理事長・学長裁量人員は別枠）[0602a]。よって、専任教員数は全学共通教育部（2017年まで）と人間力創成総合教育センター（2018年から）とで大きな変化はないが、次の(2)で述べる教員組織の編成の変化に伴い、その専任教員数の適切性の判断は議論の余地を残す[0602b, 0602c]。

(2) 専任教員は全学共通教育部（2017年度まで）では、5種類の教育科(全学総合、教職課程、初年次、全学英語、健康とスポーツ教育科)および7学部の共通教育科に配置される（経営情報学部：キャリア教育；現代教育学部：日本語スキル；工学部：教養課題教育(科学技術リテラシー)、特別課題教育、情報スキル；応用生物学部：教養課題教育(科学技術リテラシー)；人文学部：教養課題教育(人文・社会リテラシー)；国際関係学部：外国語教育(英語を除く)；生命健康学部：健康とスポーツ) [0602d]。

2018年度に全学共通教育部は人間力創成総合教育センターに改組された。人間力創成総合教育センターは、人間力基礎教育部と人間力発展教育部から構成され、両教育部はそれぞれ異なる4種類の教育プログラム(EP)から成る。人間力基礎教育部は初年次、語学、情報、健康とスポーツのEPから構成され、人間力発展教育部は教養課程(人文・社会・科学リテラシー)、特定課題、キャリア、教養課程のEPから構成される[0602e]。

改組後の組織編成で、専任教員の所属は各学部と人間力創成総合教育センター(語学、健康とスポーツ、教養課程、教職課程のEP)とに大別される。

改組に伴う教員の配置は各教員の希望を配慮して行われた。各学部と各EPに配属された専任教員の国際性と男女比等は所属母体の教育特性を反映する。例えば、語学教育プログラムでは外国籍を有する教員が多い。教員の授業担当負担は担当講義の特性を勘案して適切性を保つ配慮が行われているが、なお検討の余地を残す。専任教員の年齢構成はほぼバランスを保っている。

(3) 教養教育の運営は人間力創成総合教育センターが行い、当該センターに関わる専任教員が教養教育の授業を担っているが、各学部の学科に所属しセンターに関わらない専任教員も一部の全学共通教育科目を担当している。

0603 (1) 学内の組織改変によって、2018年4月1日に、「全学教育部」から「人間力創成総合教育センター」への改組が行われた。これに伴って、2018年5月8日に「人間力創成総合教育センター本務教員及び学部所属の教育プログラム兼務教員(学科所属教員を除く)の人事に関する申し合わせ」を整備した[0603a]。

(2) 2018年10月2日「人間力創成総合教育センター昇格基準申し合わせ」を整備した[0603b]。募集、採用、昇任等の願い出に対して、大学の人事担当常勤理事・副学長が審査委員会を開き、規定等に従った適切な教員人事が行われるように調整している[0603c, 0603d]。

0604 (1) 組織的なFD活動は、2018年度では人間力創成総合教育センターを構成するEPごとに行われており、その活性度の高低は、例えば後述するFD活動に関する打ち合わせ頻度の差に認められるが、このことは各EPを構成する専任教員の数と教員間の教育研究上の親密度に左右される。同様の傾向は2017年度(全学共通教育部)においても認められることから、小規模な組織単位でのFD活動の差は2018年度の人間力創成総合教育センターへの改組に伴う現象ではないと考えられる。例えば、教職課程教育プログラムでは専任教員によるミーティングを週1回の高い頻度で行い、計画書を作成し、これに沿って、分担・実施、評価をおこなっている[0604a]。

(2) 点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組み

人間力創成総合教育センターの各EP（全学共通教育部では各教育科）から出された毎年の重点目標・改善提案を、「学部等の重点事業計画」にとりまとめ、学長に提出し点検・評価、およびヒアリングを受けている[0604b, 0604c]。

<p>各学期末(春学期と秋学期)に「魅力ある授業作り」の一環として、学生による授業評価アンケートを自由記述形式で求め、各教員は各自の授業に対するアンケートの閲覧が可能である。また部局長等は当該部局の教員へのアンケートの閲覧が可能である。これらの情報は各教員の授業の改善と向上を促すために提供されている[0604d]。</p>	
0605	<p>(1) 全学的に各教員に自己点検・評価を促すために、年度初めに教育活動重点目標・自己点検シートの提出と、年度末に達成度の自己評価を求めている。各教員の所属する部局長が年度末に点検・評価し、最終的に学長が点検・評価する[0605a]。</p> <p>(2) 教員組織の適切性に向けての自己点検・評価とその結果を利用した改善・向上に向けた取り組み 教員の採用・昇格人事は、申し合わせに従い、関係教育科科长(学部長)・主任と相談の上、人事WG(人事担当理事と人事担当副学長及び関係学部長から成る)及び学長の了承を得て、人事審議会にかけている。しかし、人事関連の問題は経営側の事情にも関わるため、教学側の努力だけでは改善できない側面を含み、教員組織の適切性に向けての改善・向上に向けた取り組みを難しいものとしている。</p>
<p>長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No.	該当なし
<p>課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0605	教養教育科目の全学での負担を査定し、シュミレーションするためのデータベースの構築
項目 No. 0605	全学共通教育に参加している学部からの兼務・協力教員の教育貢献を学部の人事評価に反映させる 仕組みの構築。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0602	<p>(2) 人間力創成総合教育センターに所属する教員が他学部に移動する際に、当該教員が負担する全学共通教育科目を移動先の学部もしくは学科で負担する覚え書きを作成し、この全学共通教育の負担に関する覚え書きを全学で共有する制度の確立に向けての取り組みに着手する。この制度の確立にはなお審議を必要とし、審議の資料を作成するために改善点で提案したデータベースの構築を必要とする。</p>

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策(到達目標を含む)
	該当なし

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0602	a	大学ホームページ・情報公表(基本理念・使命・目的、教育研究の質の向上のための各種方針等、法令定員と教員組織、教員数) https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/ https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/know/policy/ https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2017/1-05.pdf#page=1 https://www3.chubu.ac.jp/attach/facts_figures/data/2017/1-06.pdf#page=1	A
0602	b	中部大学 教員数 2017	A
0602	c	中部大学 教員数 2018	A
0602	d	全学共通教育部 HP_ホーム・概要 https://www3.chubu.ac.jp/general_education/	A

		https://www3.chubu.ac.jp/general_education/about/	
0602	e	人間力創成総合教育センターHP_ホーム https://www3.chubu.ac.jp/global_education/	A
0603	a	人間力創成総合教育センター人事に関する申し合わせ	A
0603	b	人間力創成総合教育センター昇格基準申し合わせ	B
0603	c	2017年度全学共通教育部統括調整部門会議議事録	A
0603	d	全学共通教育関係組織の運営に関する規程等.	A
0604	a	2018 FD活動推進計画書(教職課程)	A
0604	b	2018年度の学部等重点事業計画について	A
0604	c	2019年度の学部等重点事業計画について	A
0604	d	授業評価集計結果(2017年度 2018年度)	A
0605	a	教員活動重点目標・自己評価シート様式	A

提出区分 … A: 本シートと一緒に提出する資料 B: 現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準7 学生支援

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>0702(2) 学習支援室において学生の能力に応じて補習教育、補充教育などを実施しており[0702 a]、留学生、障がいのある学生等の多様な学生に対する修学支援は、国際センター（留学生）や学生相談室・保健管理室（障がいのある学生）が中心となって対応している。授業担当教員は当該学生のプライバシーを配慮しつつこれら組織の担当者などと連携し、当該学生の学修を促している[0702b, 0702c, 0702d]。各教育プログラム（EP）の特性を考慮し、学生の学修支援、補習教育、正課外教育、成績不振学生への対応などをEP別に記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学 EP（英語 I）：学習支援室に英語の時間帯（90 分）を月曜から金曜まで毎日設置して学習支援を実施しており [0702e]、語学 EP（英語 II）では正課外教育として毎学期 1 回、恵那研修センターでの英語合宿を開催している[0702f]。また、成績不振の学生について受講者観察や学習の進捗状況を綿密に観察し、学科主任・主任補佐と情報共有をすることで、成績不振の受講者の指導を連携して行っている[0702g]。 ・語学 EP（外国語）：一部の語学入門科目で、チュードントアシスタント制度を利用し、留学経験をもつ上級生を雇用している。「留学した先輩」からの学習支援は、受講生に極めて好評である[0702h, 0702i]。 ・語学 EP（日本語教育）：「日本語 IA」「日本語 IB」「日本語 IIA」「日本語 IIB」「上級日本語」の各履修生に対して、出席不良者への対応を組織として行い、語学 EP（日本語スキル）では 春学期に 3 クラス、秋学期に 4 クラス、日本語スキル A 不認定者に対する再履修(未履修者を含む)クラスの設置を行っている [0702j]。 ・健康とスポーツ EP：健康とスポーツ EP の教員は、それぞれ専門種目の課外活動に従事し、「入学支援」「生活指導」「技術指導」「就職支援」など大学生生活全般にわたる教育を行なっている[0702k]。 ・教養課題 EP（科学リテラシー）：科学リテラシーのメンバーは、正規の担当時間外に学習支援室の活動に積極的に参加し、学習指導を行っている[0702l]。 ・特定課題 EP：学生支援の実践例について情報共有するため、意見交換をする会合を、当該期間全 6 回開催
--

し [0702m, 0702n]、地球科学系科目の理解を望む学生を支援するため、正課外教育として野外教室「恐竜の時代体験バスツアー」を実施した[0702o]。	
・キャリア EP：キャリア教育科目「自己開拓」では、学生アシスタントを活用しているため、担当教員も参加して独自のファシリテータ研修を実施している[0702p]。	
・教職課程 EP：教職に関わる学生支援を教職支援センターで実施し、学生との面談・指導に関する情報は週1回の専任教員のミーティングで共有する。また正課外の自主勉強会では、教員採用試験の模擬面接を実施した。[0702q]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0702	留学経験のある上級生による学習支援[0702h, 0720i]。
項目 No. 0702	野外教室「恐竜の時代体験バスツアー」の実施[0702o]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0702	問題をかかえた学生の状況を、当該学生が所属する学部学科の教員と、共通教育科目（例えば人文社会リテラシー科目）を担当する教員との間で情報共有がされていない可能性。
項目 No. 0702	成績不振の受講者の発見と指導方法を体系的に整理し、情報を共有するシステムの確立。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0702 語学専用自習室「SI Room」のリピーター利用率を増加させたが、SI Roomに配属されている教員はいないため、今後の改善・向上に語学教員がどのように関与・貢献していくかを検討する [0702g]。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0702	学生指導におけるトラブル事例の共有と、予防方策の検討。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0702	a	学習支援室 キャンパスライフ 中部大学 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/student_life/support/study_support_room/	A
0702	b	国際センターHP 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/organization/international_exchange/	A
0702	c	学生相談室HP 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/counseling_room/	A
0702	d	保健管理室HP 大学HP https://www3.chubu.ac.jp/health_promotion/health_room/	A
0702	e	学習支援室リーフレット	A
0702	f	中部大学語学教育センター運営委員会資料、中部大学語学教育センター web https://www3.chubu.ac.jp/llc/	B
0702	g	マジカルワークショップ（中部大学語学教育センターweb） https://www3.chubu.ac.jp/llc/special_course/ https://www3.chubu.ac.jp/llc/special_course/lc_magical3/	A
0702	h	スチューデントアシスタント(SA)に関するアンケートについて(2017.07.12)	A

0702	i	SA採用授業担当教員用 業務報告書 (2017.10提出)	A
0702	j	2018年 日本語スキル不合格者数一覧.	A
0702	k	中部大学通信ウプトNo.209 2018年度クラブ活動表彰式 P16	A
0702	l	科学リテラシー_学習支援室支援実績	A
0702	m	2017年度第1回-第4回工学部共通教育科(特別課題教育科目)担当会議議事録	A
0702	n	2018年度第1回-第2回特定課題EP会議議事録	A
0702	o	野外教室「恐竜の時代体験バスツアー」2018現地配布資料	A
0702	p	SA対象研修(2018年9月18日実施)の資料	A
0702	q	教職課程ミーティング20180621	A

提出区分 … A:本シートと一緒に提出する資料 B:現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 8 教育研究等環境

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1) 教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	B
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0802 と 0806 の概要 <p>全学共通教育部(2017年)および人間力創成総合教育センター(2018年)では、毎年各教育科あるいは各EPから出された事業計画(前年度の活動実績、今年度の状況、来年度以降の目標と目指す成果)を取りまとめた「学部等重点事業計画」を学長に提出してヒアリングを受けている。</p> <p>2017年度は、全学共通教育部発足後の第3クールに向けて、教育活動の質の向上に向けての目標と評価状況、教育体制の整備充実(少人数教育とアクティブラーニング型教育への充実)、国際化への対応、高大連携教育等について記載している[0802a, 0802b]。この内容は、教授会(あるいは教員会議)、主任者会等で示し実行している。また、自己点検はこの事業計画に基づき毎年実施している。特に経年変化に加えて学部改組等に伴う多様な学生の入学および入学定員増にも対応して、健康とスポーツ「健康科学」、英語スキル教育科目、日本語スキル教育科目、情報スキル教育科目、教職課程再認定のための科目等の開講コマ数、担当(必要)教員配置数、必要講義室数・広さ、設備・機器の整備等を検討し、重点事業計画に記載し、学長ヒアリングで要求することにより計画的に実行している。また一部の科目ではFD活動だけでなく現有教員のスキルアップ研修、学外ゲスト講師招聘による教育環境充実等も自主的に行っている。</p>

個別 EP の事例	
0802(1)・英語 EP では、毎年度、教務支援課より各教員に送付される「視聴覚機器・情報機器の利用に関する調査票」に基づき、適切な環境（LL 教室、演習室、CALL 教室、マルチメディア教室、語学専用自習室「SI Room」など）で授業が行える教室を割り当てられるよう要望している[0802c]。	
0806(1)・英語 EP では教室割当表により、使用状況を適宜確認・把握している[0806a]。また、センター内連絡会議にて報告の上、学期ごとに運営委員会にて報告をしている。	
0802(1)・日本語スキル EP では事業計画案で、日本語スキル A の授業に必要な教室の設置を要請した[0802d]。	
0806(2)・語学 EP（外国語）では、年に数回行われる会議において、各言語の担当者間で開講科目やクラス数が協議された。その際に教育研究等環境の問題点について、各言語の非常勤講師からの意見も吸い上げながら検討している[0806b]。	
・健康とスポーツ EP:	
0802(1)メインアリーナ、サブアリーナの2体育館および武道体育館（剣道場・柔道場・空手道場・小体育館）、トレーニング室、多目的室（卓球場）、ダンス室、室内プール、メイングランド、サブグランド、野球場、テニスコート、弓道場、アーチェリー場と体育施設は充実している[0802e]。	
0806(1) 体育施設の管理運営は、体育・文化センターが一括管理しているので安全管理がなされている[0802e]。	
0806(2) 体育・文化センターと連携し、授業に関する施設の改善・向上は、充実している[0802e]。	
・人文社会リテラシーEP:	
0806(1) 例年、3月末に非常勤講師との教育懇談会を開催し、非常勤講師と専任教員との間で、施設・設備において更新・整備が必要な点について話し合っている[0806c]。	
・特定課題 EP:	
0802(1) 全科目（クラス）について、目的に合った講義室が使用できているかを逐次点検している[0802f][0806d]。	
0806(1)(2) 予算配分・執行が適切に行われているかについて点検した[0806d]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0806	特定課題 EP による野外教室等、授業以外の教育環境の充実のための活動について点検。
項目 No. 0806	特別課題教育科目「地域共生実践」、キャリア教育科目「社会人基礎知識」での学外ゲスト講師の参画。
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0802	CALL 教室の増設。
項目 No. 0806	大教室でのプロジェクターの輝度が低いため、高輝度のプロジェクターへの変更が必要。（事例：前列の照明を落としカーテンを閉めると、学生が前列に座ることを避ける。）
項目 No. 0806	夏季冬季に教室や研究室の温度が自由に設定できず、快適な教育環境を提供できないことがある。
項目 No. 0806	グループワーク対応の講義室の不足。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0806	キャンパス整備委員会により全学的な規模で改善・向上が行われている[0806e]。
0806	夏季および冬季に教室や研究室の温度が自由に設定できる快適な教育環境の提供を交渉する[0806f]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0806	授業の目的に合った講義室の施設・設備の提案をより積極的および全学的に行う。
0806	2018 年度から「全学共通教育部」が「人間力創成総合教育センター」へと組織変更され、多くの教員が学部本務となった。責任ある教育体制確保の為に学部・学科の枠組みを超えた担当教員の配置とそれに応じた教育研究等環境の適切性を検討する。
0806	一層の教育効果が期待できるカリキュラム改革と同時に教育研究環境が悪化しないための配慮が必要。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0802	a	2018 年度の学部等重点事業計画について	A
0802	b	2019 年度の学部等重点事業計画について	A
0802	c	「視聴覚機器・情報機器の利用について」	A
0802	d	事業計画提出表 日本語スキル	A
0802	e	体育文化センター https://www3.chubu.ac.jp/organization/centers/gymnasium/	A
0802	f	2017 年度第 1 回-第 4 回工学部共通教育科（特別課題教育科目）担当会議議事録	A
0806	a	CALL/Media 教室割当表	A
0806	b	国際関係学部共通教育科（外国語）現状報告(2017 年 12 月 13 日)	A
0806	c	非常勤講師との教育懇談会 資料	B
0806	d	2018 年度第 1 回-第 2 回特定課題 EP 会議議事録	A
0806	e	キャンパス整備計画案（中長期）キャンパス整備委員会資料(20171220)	A
0806	f	中部大学 全学で取り組む省エネルギーの徹底について_省エネルギー推進委員会資料(20180427)	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 9 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2) 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	B
		(3) 地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0902(2) 語学 EP（英語 I）：専任教員が高大連携科目として資格英語 AB を開講している [0902a]。
0902(3) 語学 EP（英語 II）：子どものための異文化理解講座「きつずせみなあ」を 1999 年度から継続的に毎年実施し、参加者から感想を回収し記録している。その結果は Web に公開している [0902b]。
0902(2) 語学 EP（外国語）：語学 EP（外国語）の科目を担当してきた一部教員は、CAAC（シニア大学）の中国語入門を担当している「0902c」。
0902(2)(3) 語学 EP（日本語教育）：語学教育センター日本語教育プログラムでは、中部大学短期留学生在が、春日井市内の小学校を訪問し小学生たちと交流し、異文化交流・理解に努めた。本企画は地方自治体との協力行事である [0902d]。
0902(2) 語学 EP（日本語スキル）：2018 年 12 月に「日本語スキル A」での実践内容を「「日本語スキル A」の実践報告」中部大学教育研究 No. 18」に公刊した [0902e]。
0902(2) 健康とスポーツ EP：教員個々がスポーツのトップアスリートの経歴を持ち指導者としても実績を修めている。具体的には、ナショナルチームの監督・コーチとして活動したり、全国各地で指導者講習会、大学生・高校生・青少年対象の実技講習会などで自身の研究・研修成果を社会に還元している。また当該教員は、海外での講習会に招聘されるなど国内だけでなく幅広い活動を行なっている [0902f]。
0902(2) 教養課題 EP（人文・社会リテラシー）：海外でフィールドワークをおこなう研究者は、研究成果を地域住民が参加できる公開講演会で公表し、また国際交流事業として、海外での調査に加えて、海外から共同研究者などを招聘している [0902g, 0902h]。
0902(3) 海外フィールドワークで得られた資料は、中部大学民族資料博物館と連携して展示している [0902i]。また、人文社会リテラシー科目の芸術関連の授業を担当する教員によって、中部大学民族資料博物館による企画がおこなわれており [0902j]、さらに、人文社会リテラシーの音楽関連の授業を担当する教員によって、中部大学キャンパスコンサートが企画、実施され、広く市民に公開されている [0902k]。
0902(2) 教養課題 EP（科学リテラシー）：0902(2) 数学の面白さを広く社会に伝える「数学キャラバン」において、科

<p>学リテラシーの一員が2017年度は企画・講演・司会を担当し、2018年度には企画・司会を実施して、数学を社会に発信することに貢献した[0902i]。</p> <p>0902(2)科学リテラシーの講義「地球と生命」では、2018年度に23名の社会人聴講生を受け入れた。</p> <p>0902(2)キャリア EP:キャリア教育科目の単位は、COC事業として始められた地域創生メディエーター（春日井の町（地域）の人々とともに地域の多様な問題解決に取り組む実践型の体験学習）の資格取得の条件になっている[0902m]。</p> <p>0902(2)教職課程 EP:社会貢献として、毎年、教員免許状更新講習を行っている[0902n]。</p>	
<p>長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0902	「きつずせみなあ」では、小学生から中高生を受講対象とし、その家族の受講も受け入れ、異文化背景を持つ本学学生も学習ファシリテーターとして参加。
<p>課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0902	学生に留学プログラムにいつそう関心を持たせる工夫をする。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0902	健康とスポーツ EP では、専門種目を通して高いレベルの社会貢献を行うために日々絶え間ない実技研修とコーチング論の研究・実践を必要とし、大学生との課外活動での指導は必須である。
0902	「数学キャラバン」への主体的取組や併設校向けの模擬講義講師派遣、大学入試問題研究会などへの積極的参加など多くの活動を展開して、適切な情報発信を行うよう心掛けている。
0902	社会人聴講生が受講できる講義と聴講生の数をさらに増やすよう、大学に提案している。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0902	当該組織における社会連携・社会貢献の方向性・あり方について今後検討を行う。例えば、高大連携科目を今後どうするか。2019年度からは語学教育センターでの開催体制がなくなるため、今後の開講予定はないが、開講ニーズがある場合は、主催者の検討から開始し直さなくてはならない。
0902	社会人聴講生対象の講義の数と受入人数の増加を大学全体として認められるようにする。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0902	a	資格英語シラバス	A
0902	b	語学教育センター web 内、子どものための異文化理解講座「きつずせみなあ2017」「きつずせみなあ2018」 https://www3.chubu.ac.jp/llc/news/23925/ https://www3.chubu.ac.jp/llc/news/11417/	A
0902	c	2018年度 中部大学アクティブカレッジ(CAAC) https://www3.chubu.ac.jp/caac/news/23484/	A
0902	d	2018秋小訪問資料	B
0902	e	「日本語スキルA」の実践報告 中部大学教育研究 第18号 p27～32	A
0902	f	2017年度教育・研究活動に関する実態資料（別冊）p196～197	A
0902	g	西アジア考古学・文化遺産セミナー「レバノン・シリアの考古学研究最前線—学術調査と	A

		文化遺産学の視点からー」 https://www3.chubu.ac.jp/humanities/news/24246/	
0902	h	西アジア考古学・文化遺産セミナー (2) 「イラク・クルディスタンにおける文化遺産の最前線ースレイマニヤ文化財局・博物館の若手専門家を迎えてー」 https://www.chubu.ac.jp/news2/detail-3883.html	A
0902	i	展示紹介 中部大学民族資料博物館 中部大学 https://www3.chubu.ac.jp/museum/guide/	A
0902	j	中部大学民俗資料博物館 年報およびニュースレター https://www3.chubu.ac.jp/museum/printing/	A
0902	k	中部大学キャンパスコンサート開催記録 https://www3.chubu.ac.jp/music_event/campus_concert/records/	A
0902	l	caravan2018	A
0902	m	地域創成メディアエーターパンフレット	A
0902	n	2018年度 中部大学教員免許状更新講習日程表	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管

2019 年度（対象年度：2017～2018 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	人間力創成総合教育センター
--------	---------------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「A：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「B：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「C：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「D：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2) 委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
<p>1120(2) 2017 年度に、全学共通教育部では、全学共通教育関係組織の運営に関する規程等[1120a]に従って、全学共通教育部運営委員会、教授会、統括調整部門会議、主任者会を開催している[1120b, 1120c, 1120d, 1120e]。また 2016 年度末に 2017 年度の会議開催年間計画を作成し、計画に沿って開催した。会議ごとに議事録を作成し、部長が確認をした後に次回の会議で承認している。例えば、2017 年度には「全学共通教育部主任者会」を4回開催し、「全学共通教育部教授会」を6回開催し、それぞれ議事録を作成した。</p> <p>なお、全学共通教育部に属する5教科（全学英語、全学総合、初年次、健康とスポーツ、教職課程教育科）では、必要に応じて随時学科会議を開催している。</p> <p>2018 年度に人間力創成総合教育センターは「運営委員会」を9回開催し（内6回は審議の迅速化を図るためにメール審議を採用）、また「教員会議」を10回開催し、持続的に業務内容の点検を行い、それぞれ議事録を作成した[1120f, 1120g]。会議における議事録はメールで構成員全員に配布して共有し、加筆修正を加えて議事の正確性を確保した。</p> <p>なお、人間力創成総合教育センターに属する8プログラム（人間力基礎教育部：1) 初年次教育、2) 語学教育、3) 情報教育、4) 健康とスポーツ教育プログラム（EP）；人間力発展教育部：5) 教養課程、6) 特定課題、7) キャリア、8) 教職課程教育プログラム（EP））では、必要に応じて随時会議を開催している。</p> <p>人間力創成総合教育センターの運営に関する重要事項（人間力を培うためのプログラムの実施）と、教養教育および教養教育のあり方等を審議するために、学長が指名する副学長、センター長、副センター長、各学部長、および学長が指名する者が参加しセンター「調整企画会議」を開き持続的に業務内容の点検を行い、議事録作成に関する手続きは適切に遂行されている[1120h]。</p>	
長所・特色 < 箇条書き >	* 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No.	該当なし
課題事項 < 箇条書き >	* 改善すべき点、向上すべき点

項目 No.	該当なし
--------	------

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
1120(2) 全学共通教育部では、専任教員の教授会構成員だけではなく、他学部の学部長、他学部専任教員等をもメンバーに加えた運営委員会、主任者会、統括調整部門会議等を開催し、現状と課題を議論して自己点検・評価を実施し、全学部に通じて必要な教育を全学部の協力の下で遂行するという意識を共有する体制を整えた[1120 d]。人間力創成総合教育センターでは、共通教育部の考え方を受け、調整企画会議を置き、人間力を培うための多様なプログラムの実施に腐心している。共通教育部からセンターへの組織変更に伴い、全学教養教育の負担など、より一層共通教育への全学的協力が必要とされ、業務内容の点検に向けて調整企画会議[1120h]での審議の質を高める取り組みが必要とされる。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120(2)	より良い全学共通教育を目指し、責任組織としての業務内容の検討を行うために「人間力」とは何かを問うことから始める。これに関して具体的には、人間力創成総合教育センターの規定の第2条に「センターは各学部と協同して、人間力の基礎を身につけ、それを発展させ、専門力と相まって、実践力豊かな国際的視野を身につけた「あてになる人間」を育成することを目的とする。」と記載されている。しかしながら、「人間力」とは何か、その「基礎」とは何かが厳密には述べられていない。 「人間力」を教養教育の根幹とするならば、「人間力とは何か」を問うための議論とそれに基づく講義編成を考案しなければならない。また、この考案は各学部と協同して行なわれるべきであり、そのための方途を具体的に検討することが喫緊の課題である。「人間力とは何か」を問うことは、持続的な業務内容の点検を形骸化させないために必要な前駆作業である。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	全学共通教育関係組織の運営に関する規程等	A
1120	b	2017年度全学共通教育部運営委員会議事録	A
1120	c	2017年度全学共通教育部教授会議事録	A
1120	d	2017年度全学共通教育部統括調整部門会議議事録	A
1120	e	2017年度全学共通教育部主任者会議事メモ	A
1120	f	2018年度人間力創成総合教育センター運営委員会議事録	A
1120	g	2018年度人間力創成総合教育センター教員会議議事録	A
1120	h	2018年度人間力創成総合教育センター調整企画会議議事録	A

提出区分 … A：本シートと一緒に提出する資料 B：現部署で保管